

「宇野港」を日本一の港に! 清き一票をお願いします!

宇野港は「ポート・オブ・ザ・イヤー2021」の
受賞を目指しています。
ご賛同いただける方は、投票をお願いします。

宇野港のココがスゴイ!

- ① 開港90周年を迎えた岡山県内随一の歴史ある港
- ② 物流拠点として更なる進展
- ③ クルーズ船の寄港や瀬戸内の島々への玄関口



国土交通省 中国地方整備局 宇野港湾事務所

暮らしを支えるみなとの情報誌

Vol.98 October 2021

港湾

10

月号

特集

港を支える
臨港道路

特別寄稿

臨港道路技術の現状と関わり

早稲田大学名誉教授

清宮 理



公益社団法人日本港湾協会

The Ports and Harbours Association of Japan

PORT OF THE YEAR 2021

情報誌「港湾」が選ぶ ポート・オブ・ザ・イヤー 2021 投票受付中!

情報誌「港湾」では、読者の方々の投票を募り、みなとまちづくり等の活動でみなとに関する話題づくりにその年で最も優れた港湾を選定し、「ポート・オブ・ザ・イヤー」として表彰しています。

重要港湾、地方港湾を問わず、また規模の大小を問わず、我が国の港湾・臨海部の活性化に寄与した、全国全ての港湾が投票の対象となります。

港湾管理者その他の港湾関係官署、港湾関係企業、港湾を活動の場とするNPOやその他の市民団体などが地域の特性を活かしたユニークで工夫に満ちた取り組みを行った結果、「みなとの元気」が著しく高まった港湾や、我が国港湾界においてエポックメーキングな出来事があった港湾を選定し、ご投票下さい。

「ポート・オブ・ザ・イヤー 2021」に選ばれた港湾は、(公社)日本港湾協会会長から賞状及び盾が授与されるほか、情報誌「港湾」で紹介されます。また、当協会発行のポケットブック「数字でみる港湾2022」の表紙と裏表紙に、受賞港の写真が採用されます。

これまでの受賞港	
2003年	名古屋港 [愛知県]
2004年	大船渡港 [岩手県]
2005年	姫川港 [新潟県]
2006年	中津港 [大分県]
2007年	該当なし
2008年	大竹港 [広島県]
2009年	該当なし
2010年	輪島港 [石川県]
2011年	船川港 [秋田県]
2012年	十島村及び三島村 [鹿児島県]
2013年	八幡浜港 [愛媛県]
2014年	福良港 [兵庫県]
2015年	細島港 [宮崎県]
2016年	酒田港 [山形県]
2017年	境港 [鳥取県・島根県]
2018年	紋別港 [北海道]
2019年	釜石港 [岩手県]
2020年	佐渡島の港 [新潟県]

投票方法変更について

昨年から投票方法を変更致しました。

- ①投票される方は、日本港湾協会ホームページ「ポート・オブ・ザ・イヤー」(<https://www.phaj.or.jp/POTY/index.html>) より必要事項を記入の上、送信して下さい。
- ②ホームページからの投票ができない場合は、55ページの投票用紙に必要事項をご記入いただき、郵送にて下記住所までお送り下さい。

*情報誌「港湾」を購読されていない方でも投票できます。

【注意事項】

- 同じアドレスからの投票は1回のみとなります。
複数回の投票をいただいた場合は無効となりますのでご了承下さい。
- FAXでの投票受付は行っておりません。

締切り：令和3年11月30日(火) 必着

[お問合せ・郵送先]

公益社団法人日本港湾協会

情報誌「港湾」ポート・オブ・ザ・イヤー 2021 係

〒107-0052 東京都港区赤坂3-3-5 住友生命山王ビル8F TEL: 03-5549-9575



今年は「宇野港」「新居浜港」「川内港」の推薦文が届いています。投票の際のご参考にしてください。

宇野港 [岡山県]

宇野港は、瀬戸内海の中央部、岡山県南央に位置し、周囲を山と島とに囲まれる天然の良港です。1909年に鉄道連絡線のターミナルとして竣工して以来、古くから海上交通の要衝として、また岡山県の主要な外国貿易港として発展してきた重要港湾です。

現在では、県内の企業を支える物流基盤としての役割を担い、また、四国や島嶼部への玄関口として、クルーズ船の寄港地として、物流・人流の拠点となっています。

●開港90周年を迎えた岡山県内随一の歴史ある港

宇野港は、1930年に岡山県初の外貿商業港として開港指定を受け、昨年（2020年）、開港90周年を迎えました。同年11月には、「宇野港開港90周年記念式典」等の各種イベントが開催されました。イベントでは、宇野港や宇高連絡船の歴史を振り返る回顧展のほか、瀬戸内海地域を拠点とするアイドルグループ「STU48」のステージパフォーマンス、地元高校生によるキャンドルナイトなどが行われ、節目を祝うとともに、官民が一体となって宇野港の更なる発展を誓ったところです。

●物流拠点として進展

宇野港田井地区は、国内RORO定期航路や不定期のPCC船、バルク船などが寄港する宇野港の物流拠点です。その中でも国内RORO定期航路は週7便が就航していますが、今後の貨物需要の高まりやトラックドライバー不足などを背景に本年5月、RORO船としては国内最大級の、「第五はる丸」（大王海運（株）運航）が就航いたしました。「第五はる丸」は、同社がこれまで運航していた「第二はる丸」から新造（大型化）したもので、シャーシ積載能力は1.6倍となります。これにより、宇野港の物流拠点としての更なる進展が期待されています。

●クルーズ船の寄港や瀬戸内の島々への玄関口として

官民一体で進めているポートセールスや寄港時のおもてなし等が功を奏し、宇野港へのクルーズ船寄港は、年々増加傾向にあり、2020年には過去最多の寄港回数を予定しておりました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020年以降寄港がありません。現在はこの状況から脱却すべく、クルーズ船寄港再開に向けた取り組みを進めているところです。

また、宇野港はフェリーや旅客船が1日30便以上発着しており、瀬戸内の島々へ向かう海の玄関口となっています。特に、3年に1度開催される「瀬戸内国際芸術祭」は国内外の注目を集め、期間中は海外からの観光客をはじめ大変な賑わいとなっています。加えて、本年7月には、宇野港から徒歩3分のところに新たなホテルが開業し、瀬戸内の多島美を巡る旅の拠点性が益々高まりました。

以上のように、開港90周年を迎え、物流、人流双方で活気あふれる宇野港をポート・オブ・ザ・イヤー2021に推薦いたします。

新居浜港 [愛媛県]

●重要港湾指定70周年を迎えた四国有数の工業港

新居浜港は、四国の中央部、瀬戸内海の燦灘に面し、温暖な気候・風土に恵まれた新居浜市の臨海部に位置する重要港湾です。当該港は1951年9月に重要港湾に指定され、70周年を迎えました。330年前に住友家が「別子銅山」を開坑して以降、当該港は産銅の積み出しや生活物資等の海陸運輸の中継港となり、沿岸部には住友関係の工場群が带状に形成され、日本経済の発展とともに伸張し四国有数の工業港となりました。

●港湾を拠点とした新居浜市臨海部立地企業のカーボンニュートラル実現に貢献する取り組み

新居浜市の臨海部には、各産業の基礎素材を製造する工場が立地しており、燃料転換などによりCO₂排出量削減を目指すとともに、低炭素負荷製品の安定供給など、社会のカーボンニュートラル実現に貢献する取り組みが進められています。

新居浜市に立地する住友金属鉱山（株）においては、新居浜港を利用してニッケル原料を輸入し、自動車の電動化に伴う車載用二次電池向け正極材を生産し、新居浜港東港地区を発着するオレンジフェリーを利用し、国内及び海外に出荷しています。なお、正極材増産のための新工場建設が決定しています。また、同市に立地する住友化学（株）においても車載用二次電池向けセパレーター等を生産しています。

新居浜市臨海部立地企業は港湾を拠点として、脱炭素化に貢献しております。

●環境に優しい天然ガスを利用したLNG基地と火力発電所の建設

東京ガスエンジニアリングソリューションズ（株）・四国電力（株）・住友化学（株）・住友共同電力（株）・四国ガス（株）が出資し、新居浜LNG（株）を設立し、2022年2月操業に向け、住友化学（株）愛媛工場の構内にLNG基地が建設されています。地上式として世界最大規模となるLNGタンク（23万kl）1基、外航タンカー用の海上バース（水深14m）、LNG気化器、ローリー出荷設備等が整備されています。貯蔵したLNGから生産したガスは、新居浜北火力発電所*のほか、住友化学（株）や近隣の工場に供給される予定です。

天然ガスは石炭や石油などと比べてCO₂発生量が少ないことから環境への負荷が低く、地球温暖化抑制に大きく寄与することが期待されています。

*新居浜北火力発電所：住友共同電力（株）が住友化学（株）愛媛工場の構内に建設中。天然ガスを主燃料とし、化学プラントで発生する副生ガス（水素）も有効利用する発電所。出力15万kW、2022年7月操業開始予定。

●新型コロナウイルスの影響下のもと、国内初のクルーズ再開

2018年度より地元商工会議所や市観光協会と連携したクルーズセミナーを開催し、市民のクルーズへの関心を高める取り組みを進めてきました。



新型コロナウイルスの影響下において実施された、新居浜港を発着とした「にっぽん丸チャータークルーズ」(2020年10月25日～27日)は、「にっぽん丸」新居浜港初入港であるとともに、「クルーズ船が寄港する旅客ターミナル等における感染拡大予防ガイドライン(日本港湾協会)」に基づく国内初の取り組みとなりました。

●中四国最大級の公共マリーナ「みなとオアシスマリンパーク新居浜」

新居浜港東港地区に、海洋レクリエーション活動の場として整備した公共マリーナ施設である「マリンパーク新居浜」があります。ヤシの木がそびえ立ち、潮風と波の音に誘われて楽しさあふれるマリンリゾート地で、人工海浜、キャンプ場や宿泊施設、多目的広場のほか、四国最大級の公共マリーナ施設、海やヨットを眺めながら本格派フレンチが堪能できるレストランを備え、夏には「ヤシの木ビーチ」と呼ばれる人工海浜で海水浴やビーチバレーを楽しんだり、キャンプやバーベキューをする人で大変賑わいます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う三密を避ける新しい生活様式が求められる中、昨今のアウトドア志向の強まりを受け、キャンプ場においては、年間を通じての利用者が急増しております。また、マリーナ施設においては、マリンレジャーを楽しむ人が増え、レンタルボート会員数が増加しており、釣りやクルージングを楽しむ多くの方々に利用いただいています。2018年7月に、みなとオアシスに登録された当該施設は、今後とも、より一層の賑わいづくりに向けた取り組みが期待されます。

●ポート・オブ・ザ・イヤー 2021へ推薦

以上のように、新居浜港は背後企業とともに、長い歴史の中で成長し続け、産業発展の下支えをする大きな役割を果たしています。さらに、新居浜港は親しみやすい賑わいの場として、地域の元気を高めています。

港に活力があり、元氣あふれる新居浜港をポート・オブ・ザ・イヤー 2021に推薦させていただきます。

川内港 [鹿児島県]

川内港は、九州南部の西端、鹿児島県の北西部に位置し、奈良・平安時代には坊ノ津、博多津とともに九州三津の一つとして称され、京都・奈良方面への海上交通の基地として、また唐貿易の重要港として役割を果たしてきました。1970年5月に重要港湾への指定から、2004年にはコンテナ航路の開設、2014年には甕島への高速船の就航、2019年には港湾計画が改訂され、2021年4月には国際物流ターミナル整備事業が新規事業化されるなど、地域経済や産業、地域の振興、離島の生活や観光など振を支える重要な役割を担っており、2020年には重要港湾指定から50周年を迎えたところです。

●連携による地方創生、地域産業の活性化に向けた取り組み 産学官による20～30年後を見据えた川内港長期構想

を策定後(2019年9月)、川内港を活性化させるため、鹿児島県北西部では初めてとなる、「川内港地域活性化協議会」を官民連携で発足(2019年11月)し、輸出入強化や港利用の企業立地促進など長期構想に基づく港の機能強化を図っています。また、川内港近隣の3自治体(阿久根市、日置市、薩摩川内市)が「薩摩国広域輸出促進協議会」を設立(2020年5月)し広域連携による集荷促進を図っています。ここでは、地元食材の販売をはじめ、観光PRなど海外展開に向けて鹿児島県も合同になり海外輸出プロモーションを共同で開催しています。

これに並行して、林業関係者を中心とした「次世代型林産品輸出システム検討会」を官民連携で発足(2019年10月)し、川内港背後の林産品輸出拡大に向け、川上から川下まで一体となった物流効率化による輸送コスト削減や継続的・安定的な木材供給体制の構築など取り組みを実施しています。

川内港の近隣には、九州新幹線、南九州西回り自動車道のインフラ整備も進んでおり、川内港の利用促進に向けた取り組みを官民一体となって展開していることから、人流・物流が拡大され、雇用の創出や地域産業の活性化が進展しているところです。

●南九州の産業を支える国際物流拠点としての更なる飛躍に期待

2014年以降よりコンテナ船による原木輸出が増加し、近年では貨物船による原木輸出も行われています。港湾の背後地域は主伐期を迎える森林資源が豊富で、急増する中国等の木材需要に対応できると考えており、更なる木材輸出の増加が見込まれています。そこで、大型船による効率的かつ経済的な木材輸出を行うための岸壁整備に向けて、港湾計画の改訂(2019年)を行い、2021年4月には国際物流ターミナル整備事業が国土交通省の新規事業として採択されました。

●高速船の就航にあわせ地域一体となった「みなとまち」づくりから「みなとオアシス薩摩川内」の誕生

2014年の高速船の就航にあわせて高速船ターミナルも開設し、島民や観光客の交通拠点となっています。また、2016年には高速船ターミナルに隣接した場所に、地元の農林水産物、加工品の直売所や食を楽しむことの出来る「川内とれたて市場」がオープンし、月間延べ9千人以上が来訪する「地域の賑わいの創出の場」となっています。2020年8月には甕島列島が甕大橋の開通により一つに結ばれ、周遊観光の促進に向けた地域住民と一体となった取り組みもあり、本土と甕島を合わせて、2020年11月にみなとオアシスへの登録が行われたところです。

このように、市民、地元企業、港湾関係者、行政が一体となって、みなとの元気を創出する取り組みを進めている川内港をポート・オブ・ザ・イヤー 2021に推薦いたします。

ポート・オブ・ザ・イヤー 2021
投票用紙

お名前						
ご職業	☐ 会社員	☐ 公務員	☐ 団体職員	☐ 自営業	☐ 学生	
	☐ その他 ()					
ご年齢	☐ 10歳以下	☐ 10代	☐ 20代	☐ 30代	☐ 40代	☐ 50代
	☐ 60代	☐ 70代	☐ 80代以上			
投票するみなと名： 港 (都・道・府・県)						
選定の理由：						

締切り：令和3年11月30日（火）必着